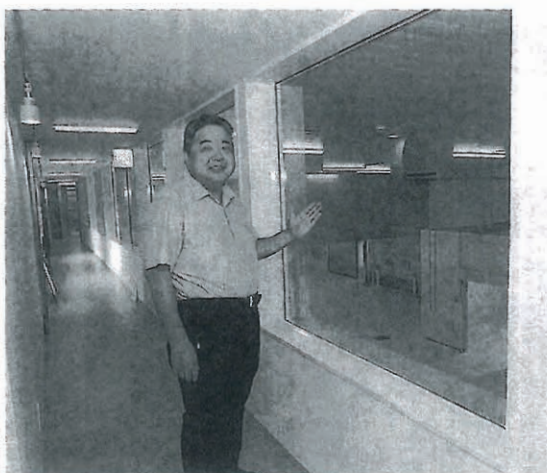


景観にも配慮された新蔵の外観



2階の見学通路で新保光栄社長

昨年11月から建設工事を進めていた津南町大割野の苗場酒造(株)新保光栄社長)の新蔵がこのほど完成、15日にはお披露目の町民が訪れた。新蔵建設は、国道40

売り上げ一気に4倍へ

苗場酒造の新蔵完成、通年醸造で生産も4倍可能

5号線の歩道拡幅に伴い、米蔵と酒蔵を解体することになったことも契機となった。

建築総事業費は約2億円、醸造機やタンク、蒸し器などの設備費に約3500万円を投じた。大型木造トラス構造で延べ床面積は約580平方メートル。うち12・7メートル×21・8メートルの広さで無柱空間をつくりながらも3・5メートルの耐雪構造を実現した。総合設計は十日町市の協和建設(株)、構造設計と木材の加工と組み立ては、県外の専門業者が担った。さらに、超断熱により、どんな真夏でも通年で室温20度以下を保つことが可能となり、四季を通じて仕込めるようになることで一気に約4倍の増産ができるとしている。2階には長さ約18メートルの見学通路も設置され、特に予約を入れなくても

自由に蔵人が作業している姿を見学できる。

新蔵は、2018年に発売以来、同社の売り上げの約6割を占めるほど急成長した人気の生酒「醸す森」製造が中心。4倍増産で同社売り上げも昨年の1億6千万円から、2、3年後の新蔵フル稼働で一挙に6億円まで伸ばしたい計画だ。

不動産を始めホテルやレストラン経営も手がける新保社長は、「新蔵は再投資できる利益が出るための仕込み蔵。第2、第3の蔵を作るための第1弾」と位置づけ、「私が蔵を継いでちょうど10年。その時の売り上げは6千万円だった。日本酒は製造業としても世界で通用する事業。津南は日本酒をつくる条件が最高に揃っているところだ」と熱い想いを語っている。

同社では現在試験醸造している、酒粕を使った米焼酎・カストリ焼酎も新たに9月下旬から製造開始したいとしている。

また、近く20歳代の若者を雇用する予定で、従業員は13人に。その全てが地元雇用。うち5人が20歳代で占める。